

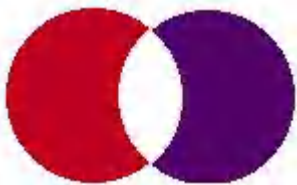
日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.51
2010-5-30

일한 시민 네트워크・나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788



目次

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 2. 会の活動報告 | 事務局 |
| 3. 会からのお知らせ | 事務局 |
| 4. ニュース | 事務局 |
| 5. ソウル通信 | 坂野慎治 |

사무국통신 事務局通信

..... 事務局 統括幹事：後藤和晃

◎ (1) 韓国の学生・市民の心情に思いを馳せよう！！

～ 哨戒艦「天安」の爆発・沈没をめぐって ～

この5月20日(木)、3月に起きた韓国の哨戒艦「天安」の爆発・沈没事件を調査していた韓国軍とアメリカ、オーストラリアの専門家たちで構成された合同調査団が天安沈没の背景に北朝鮮の潜水艇による魚雷攻撃があったとする重大な見解を発表しました。

調査団は、その最大の根拠として天安が沈没した海底から、完全に近い魚雷のスクリュウを引き揚げ、そのスクリュウに刻まれている製造番号を判読した結果、ハンゲルで記した字体や刻印スタイルが北朝鮮のものと断定したというのです。この見方は韓国軍だけでなく、アメリカやオーストラリアの専門家も同意しており、朝鮮半島情勢は一気に緊迫の度を増してきました。

「天安」は、南北の領海線上の警戒にあっていた3月26日、突然、大爆発を起こし船体は真っ二つに割れ、沈没しました。この爆発・沈没で、なんと46人も若い乗組員の命が一瞬にして失われることとな

り、韓国全土に衝撃が走りました。しかも沈没の原因をつきとめようとする調査が進むうち、韓国の軍人や市民ばかりでなく、学生・生徒に至るまで背筋が凍るような不気味な想いを抱かされました。



それは哨戒艦の爆発が北朝鮮の魚雷攻撃によるものではないかという情報でした。5月に入ってからは「北朝鮮の仕業」とする報道があいつぎ、ついに20日の合同調査団の発表に至ったのです。

一国が他国の船、しかも哨戒艇を魚雷をもって攻撃し、爆発、沈没させ多くの人命を海中に葬ったとすれば、これは戦前であれば、間違いなく関係国間の戦争に発展したはずです。今回、「天安」沈没が北朝鮮

の攻撃と断定されたことにより、1953年（昭和28年）以来休戦状態となっている韓半島に再び砲火が飛び交うような大変な事態が起こっても不思議ではありません。

事実、北朝鮮は調査団の発表に捏造と反発し「戦争も辞さない！」と脅し文句を並べています。

しかし今、核を持っている北朝鮮との間に砲火を交えるような事態を起こしたいと思っている韓国人は一人もいないでしょう。万一、ミサイルが飛び交うような事になれば、国境から、わずか数十キロに位置するソウル1000万市民の生命が、直ちに、危機にさらされるからです。

2000年の故金大中元大統領の平壤訪問以来続けてきた南北和解の努力を水泡に帰すことは残念だと嘆いている市民も多いはずで

隣国の市民たちの切迫した心情に思いを馳せている日本人は決して多くはないでしょう。せめて、私たちだけは韓国の市民・学生の心情を受けとめ、韓半島情勢を注視してゆきたいと思います。



国防部が5月20日に公開した北朝鮮製魚雷のスクリーン(上段)と「天安」の甲板にある煙突の写真。
／写真=李泰景(イ・テギョン)記者、国防部提供

**회의 활동 보고와 알림
会の活動報告とお知らせ**

(1) 第13回総会を行いました。

今年も名古屋韓国学校の教室をお借りして13回目となる総会を行いました。参加者は30余名、例年の通り過去一年間の実績や会計状況を確認した後、これからの一年の行事予定や会の執行態勢を決めました。よく目を通していただき、折にふれ事務局に感想や意見をお聞かせ下さい。

● **09年度実績**

月	日	曜日	行事	人数	備考
4	13	月	韓国大邱市での水崎林太郎翁追慕祭に参加	60	会から5人参加
4	26	日	日韓交流史講座「伽耶」の(1)伽耶古墳	45	南山大学名誉教授 伊藤秋男氏
5	4	祝	ハムケ(一緒に)の日韓高校生交流を支援		久田光政幹事
	17	日	日韓交流史講座の(2)交流の原点・勸島	45	名大名誉教授 渡辺誠氏
	23	土	シニア望郷の集い	15	引揚げグループ
6	21	日	日韓交流史講座の(3)金官伽耶と古代日本	45	日比谷高校教諭 武井一氏
	28	日	韓国人留学生を励ます会	73	顧問・会員など
7	19	日	日韓交流史講座の(4)安羅伽耶と大伽耶	45	日比谷高校教諭 武井一氏
8	19 ~23	水 ~日	日韓交流史講座の(5)謎の国・伽耶紀行	30	大邱・慶北大 朴天秀教授
9	13	日	日韓交流史講座の(6)伽耶の実体と古代日本	45	日比谷高校教諭 武井一氏
	16	水	韓日歴史文化フォーラムを支援 女流飛行士・朴敬元の生涯	60	加納実紀代氏
10	14 ~17	水 ~土	日中韓国テレビマンフォーラム・仁川		事務局が参加
10	4	土	会報43号発行	6	担当 中川・鈴木一字

2010年					
1	17	日	日韓市民交流の夕べ	68	名古屋韓国学校
2	8	月	韓日歴史文化フォーラムを支援 高句麗の誇り守って1300年	140	高麗家60代 高麗文康 氏
2	21	日	日韓交流史講座Ⅱ百濟編 - 1 百濟の誕生と栄光	47	日比谷高校教諭 武井 一 氏
3	21	日	日韓交流史講座Ⅱ百濟編 - 2 仏教伝来の衝撃	47	京都橘大学名誉教授 猪熊 兼勝 氏
3	21	日	第13回総会		名古屋韓国学校
※以上の他、会報を5、8、10、12、3月に発行した。					

● 09年度 会計報告

2009年度 会計報告書

2009年4月1日 ~ 2010年3月31日

前年度繰越金	¥ 553,019
今年度収入額	¥ 769,454
今年度支出額	¥ 753,307

次年度繰越金	¥ 569,166
内訳 郵便貯金	500,162
現金	69,004

収入の部		支出の部		2006-8平均
① 今年度会費	379,000	① 通信費	234,355	162,964
¥4,000×89名		会報・案内・資料送付	114,355	138,297
¥2,000×6名		事務局電話等活動費用	120,000	24,667
¥3,000×1名		② 印刷・コピー費	34,432	43,972
預り金 ¥8,000×1名		③ 事務用消耗品費	29,327	36,697
② その他の収入	390,292	④ 日韓交流関係費	119,480	181,021
4/28 顧問2名・寄付	50,000	⑤ ホームページ運用費	44,940	52,960
6/28 留学生を励ます会・残金	224,358	⑥ 会議・会場費	10,000	11,005
1/17 新年交流会・残金	115,934	⑦ 協力者謝礼	124,528	101,142
③ 受取利息	162	⑧ 交通費・下見費用	100,190	67,629
		⑨ 雑費・手数料	56,055	48,649
計	769,454	計	753,307	706,039

※ 会費や寄付金等のお振込の際の郵便振替口座は 入金があり次第、即現金化をしておりますので、この報告書では全て現金勘定扱いとして記載し、郵便振替口座収支の報告は省略させていただきます。

2010年3月21日 上記の通り報告いたします。

監査の結果、正確であることを認めます。

会 計

会計監査

伊藤みつ子

大久保孝造

● 10年度 実施予定

月	日	曜日	行 事	人数	備 考
4	9	金	韓国大邱市での水崎林太郎翁追慕祭に参加	4	遺族・事務局から
	18	日	日韓交流史講座Ⅱ 百濟編-3 百濟木簡から読み解く交流	47	歴史民俗博物館 平川 南 館長
	29	祝	“日韓市民”交流の森	56	犬山市 八曾自然林
5	3	祝	日韓の高校生交流を支援	70	グループ“ハムケ” 久田光政・幹事
	16	日	日韓交流史講座Ⅱ 百濟編-4 百濟古墳の特徴と影響	50	南山大学名誉教授 伊藤 秋男 氏
	21	金	韓国光州弁護士会と交流	9	事務局グループ
6	26	土	日韓交流史講座Ⅱ 百濟編-5 渡来系歌人の系譜		奈良女子大学 上野 誠 氏
7	20 ~24	火 ~土	日韓交流史講座Ⅱ 百濟編-6 栄光の百濟・残影紀行		忠南大教授 朴 淳堯 氏
8	未定		光州学生訪問回受け入れ		
10	17	日	日韓交流史講座Ⅲ 新羅編-1 新羅の誕生と全国統一		日比谷高校教諭 武井 一 氏
11	14	日	許浚「東医宝鑑」400年記念シンポに強力		会員・協力者
	28	日	日韓交流史講座Ⅲ 新羅編-2 新羅古墳と日本の古墳文化		九大名誉教授 西谷 正 氏
12	19	日	日韓交流史講座Ⅲ 新羅編-3 正倉院に見る新羅の影響		奈良国立博物館 西山学芸課長（予定）
2011年					
1	23	日	日韓交流史講座Ⅲ 新羅編-4 万葉集と新羅		日本大教授 梶川 信行 氏
2	未定		日韓交流史講座Ⅲ 新羅編-5 黄金の新羅・残影紀行		大邱・慶北大 朴 天秀 教授
3	21	祝	日韓交流史講座Ⅲ 新羅編-6 新羅・亡国への道		日比谷高校教諭 武井 一 氏
3	21	祝	第14回 総会		場所は未定です
※以上に加え、適时会報を発行の予定。					



犬山市・八曾自然林 モミノ木キャンプ場 （この写真の記事は6ページにあります）

● 10年度 態勢

顧問 団	名誉顧問	鄭煥麒
	"	横内 恭
	"	伊藤秋男
	代表顧問	石原俊洋
	顧問	尹大辰
	顧問	李尚勲

幹事 （全 員 団 事 務 局 兼 務 ）	統括幹事	後藤和晃
	副統括幹事	中川修介
	幹事（会計）	伊藤みっ子
	幹事（渉外）	鈴木幸之助
	幹事（広報）	小出宣明
	幹事（留学生）	須田奈保美
	幹事（高・大生）	久田光政

事 務 局	事務局長	後藤和晃
	事務局次長	中川修介
	事務局次長	東 道生
	幹事兼務グループ	
	事務局補佐	鈴木奈津子
	事務局補佐	竹中志保美
事務局	武田章敬	

監査	会計監査	大久保孝造
----	------	-------

交 流 リ ー ダ ー	徐 彰 教	韓国での交流
	坂野慎治	ソウルでの交流
	目黒 博	留学生
	武井 一	日韓交流史
	宮本昌子	日本語指導
	荒木巴威子	韓国語指導
	加藤 勝	囲碁交流
	伊藤義郎	歴史・考古
	土岐良文	歴史・考古
	三尾和廣	森で遊ぶ
	土本美恵子	
	田口良浩	ハイキング
長澤 進	日本古典音楽	
野村 哲	アジア全般	

せ わ や ら ぎ プ	堀 芳樹	山田あき子
	鶴飼 満	増田一夫
	佐々木英之	梅田 徹
	山田雅樹	イ・ジョンベ
	市川延江	佐藤昭子

(2) 故水崎翁72回忌は波紋の中で ～韓国・大邱～

戦前の大邱市で干害に泣く農民たちのために、朝鮮総督府とかけあって巨大な農業用貯水池（寿城池）を造成し、大邱農民の恩人として追慕されてきた故水崎林太郎翁（岐阜市加納町出身）の72回忌が、この4月9日（金）、ひっそりと行われました。

水崎翁の墓は翁が完成し、逝去する直前まで水利の管理に心血を注いだ寿城池の辺りにあり、生前の翁と親しく交流していた徐家（現当主は徐彰教さん）の方々には守られています。例年ならば、徐彰教さんが中心になり地元の寿城区役所の協力を得て「水崎林太郎翁追慕祭」という形で大々的に行われるのですが、今年はやむをえない状況の下に、ひっそりと参加者が個々に参拝する形をとらざるを得ませんでした。背景にはこの春、日本の小学生の教科書に

「竹島（韓国では独島）は日本の領土である」との記述がされたことに、韓国民の怒りが燃え上がった事がありました。独島は韓国では、大邱市に道庁がある慶尚北道に所属していることになっており、市民の怒りが渦巻いている中では、“日本人の追慕

祭”を大々的に行う事は不可能だったのです。



そんな事情はあったものの、当地方からは水崎翁の曾孫にあたる小野裕美さんと賀男さん夫妻、それに夫妻の長男の陽平ちゃん（翁の玄孫で5歳）の一家と事務局、あわせて4名が参加し、徐彰教さんと墓参りしました。この他、日本からは佐賀県唐津の名工として著名な田中佐次郎さんや鳥取県の人たちも墓参りに来ておられました。

(3) 大自然の中で日韓交流 ～ 犬山市・八曾自然林 ～

この4月29日(祝)、犬山市の八曾自然林を舞台に、日韓の学生・市民の交流を盛大に行いました。当日は朝まで激しく雨が降っていて、行事の実施が危ぶまれましたが、朝の9時頃から天気は瞬く間に回復し、青空が広がってきました。この日、八曾に集まった人数はこれまでの最高を数える56人、子供から留学生、韓国人商社マンや公務員、在日の人たち、私たち会員、そして応援団(事務局の知人グループ)の人たちなど、実に多彩なメンバーでした。夫婦での参加者も多く、韓国人、在日、日本人の夫婦全てが顔を揃えたのは特筆ものでした。

集まった人たちのうち、留学生や元気なシニアの人たちがまず溪流歩きや山登りで大自然を満喫したあと、キャンプ場に特設



したバーベキュー場で焼肉、チヂミ、カレーライス、豚汁などで心ゆくまでお腹を満たしました。

大自然の中の集いは和気あいあいの盛り上がりを見せて終了、参加者の以下の感想文で当日の雰囲気を感じてください。

● 参加した学生たちの作文

「日韓・市民交流の森」に参加して

이신애 (イ・シンエ)

名古屋大学の短期交換学生として来て知ったサポート役の健介さんからの呼びかけで今回日韓交流の行事に参加することになりました。



はじめ登山は嫌いではないけれどサポートの呼びかけに対しつれない返事をしていた私でしたが、いざ参加してみたら考えさせられることがいろいろとありました。

当日の朝、雨が降っていたので「山登りができるのか」と心配しましたが、雨が降ったことでかえって雨水を含んだ澄みきった空気と鮮やかな緑により犬山の地で日本

の美しい山を満喫することができました。

日本で初めて行った山でしたが犬山は名古屋から近く洞窟や滝もある奥深い山であることがとても印象的でした。

山登りでガイドして下さった方の詳しい説明のおかげで興味深く山登りをすることができました。山の頂上から見下ろす名古屋を見ながら感じたことですが少なくとも「私は日本に来た意味があった」それは多くのことを考えることができた機会を得たことです。

韓国に帰る前に美しい日本の山をもっと登ってみたいという気持ちが湧いてきました。

準備して下さった昼食はとても美味しかったです。焼き肉・カレー・果物・お菓子などいろいろと気を配り取り揃えて下さった皆さんの心遣いを深く感じる事ができました。日本に来ていろいろ食べましたがその中で一番おいしく頂いたような気がします。

日本に来て半年も経っていませんが、こんなに多くの素敵な日本人の方々と会う事

が出来とてもありがたく思いました。

今まで大学に入る前までは歴史問題などで否定的だった日本人観があったのは事実です。

が、こんなに素敵日本人の方々に会えることができたこの山登りのおかげで次第に日本人に対する愛おしさを感じるようになりました。

まだまだ韓国は日本に対し否定的な考えを持っている人たちが多くいますが、これからは私が韓国の人達に進んで日本には良い人たちが沢山いることを知らせたいです。

考えもしなかった・日本の地でアランをみんなと一緒に歌ったことなどいろいろと思う事が多かった。

日本人が韓国を故郷のように考え韓国への愛おしさも持っている人たちがいることがよく分かりました。犬山での山登りはとても短い時間でしたが日韓関係をもっと深く考えてみるととても意味のある行事でした。

参加して下さった日本人の方々ともっと会話をしていたらよかったと済まない気持ちにもなりました。

今後このような行事がもっと頻繁に行われ日本の若い人たちも混じった日韓関係になればと思いました。

このような日韓市民団体の人達の努力が種となり韓国人と日本人の間に信頼と愛情が芽生え沢山の実になる日が来ることを心から願っています。

「日韓・市民交流の森」に参加して

日韓市民ネットワークなごや 学生代表 鈴木健介

4月より、日本人学生代表を務めさせていただくことになりました名古屋大学経済学部2年の鈴木健介と申します。高校時代、日韓の高校生の交流グループ“함께 (ハムケ) =ともに” 高校生平和特派員に参加していたころから、後藤さんにはお力添えをいただいております。この度、このような形で「日韓市民ネットワークなごや」の活動に参加させていただけることを、大変うれしく思っております。



さて、会員の皆様であれば、ここで特筆する必要などないとは思いますが、今年はいわゆる「韓国併合」から100年の年です。あまりにも「100年」にこだわり過ぎて、一過性の“イベント”にしてはならないと心に留めながらも、韓国・朝鮮・中国を含む、東アジアの歴史と向き合い、これからの時代を考えていくうえでは、一つの大きな節目であると思っています。私自身も、

今年1年間、どのように向き合っていくかを模索し続けていましたが、その一つとして、韓国の国立ソウル大学校の学生が中心となって活動している平和活動団体に参加し、日中韓の学生が今までの自分自身が受けてきた歴史教育を共有することで、これからの歴史教育・歴史観のあるべき姿を考えるというプロジェクトをスタートすることにしました。まだ始まったばかりですが、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

こうした、“アカデミック”な側面からのアプローチも重要ではありますが、これからの日韓関係を考えていくうえで、今回のイベントのタイトルそのものである“市民交流”ほど大切なものはないと信じています。「冬のソナタ」に始まった韓流ブームは、いまだやむところを知らず、韓国への渡航者は増加の一途をたどっています。また、韓国においても、日本の文化芸能に関心を持つ若者が大変増えております。しかし、例えば一般的な韓国旅行の場合、韓国の市民と向き合い、語り合うことは稀ではないでしょうか。つまり、面と向かった市民交流の機会は、決して多くはないと思うのです。そうした中で、メディアなどの影響を受けながら、漠然とした“韓国・韓国人像”や“日本・日本人像”を抱いてし

もう現実があります。インターネットの中で、ステレオタイプや先入観に依拠して、排他的に、お互いを誹謗中傷し合う人たちが少なくないのは、本当に残念なことです。そうではなくて、一人でも、二人でも、実際に面と向かって話して、人間関係を結ぶことで、自分自身の日本や韓国に対するイメージを作り上げていってほしいと思っています。そういう意味では、今回のイベントは、本当に重要な意味をもつものになったと思います。

今回は、20名を超える韓国人留学生が参加し、会員の方や、地域の方にもたくさんご参加いただきました。前夜から準備いただいた方もいらっしゃるということに驚いた留学生も少なくなかったと思いますが、こうした市民団体が名古屋にあることを、ぜひ忘れずに覚えてほしいと思います。様々な生い立ちの参加者と出会ったことも、いい経験だったと思います。そして、今回の交流会で感じたことや思ったことを心に留めながら、これからは日本で有意義な生活を送ってほしいと思います。また、参加者全員が留学生と楽しく語っていたのも大変印象的で、その様子はまさに“市民交流”そのものであったと思います。アリの合唱も楽しかったですね。毎年韓国学校でも、「留学生を励ます集い」などが催されていますが、美しい自然の中では、いつもに増して一層盛り上がっていたように感じました。

私自身も、大変楽しい時間を送ることができましたが、またこのような交流会が催される折には、韓国人留学生のみならず、日本人や在日コリアンなどもっと多くの学生にも参加を呼び掛けていきたいと思っています。こうした「日韓市民ネットワークなごや」での出会いをきっかけに、学生のネットワーク作りにも取り組みたいと思います。

最後になりましたが、今回のイベントにご協力いただいた全ての皆さんに、心から感謝申し上げたいと思います。

ありがとうございました。



日韓市民交流の森に参加してから

이성민 (李・聖民)

このイベントについて初めて耳にしたのは開始日の一週間前の学生代表鈴木健介さんからでした。そのとき日韓市民ネットワークという団体も初めて知りましたし、今回のイベントが名古屋に住んでいる韓国人のためであることも知りました。健介さんから名古屋大学の韓国人の留学生にこのイベントについて知らせてたくさんの留学生が来てほしいといわれて韓国人の留学生達に連絡を回したところ、19人ほどの留学生と一緒に参加してくれました。



わたしは今回連れて行っていただいたところのような山を登ったり、バーベキュー

をやったりしたことが今までありませんでした。なので、3年間名古屋では経験できなかったことをこのイベントを通じて経験することができました。

まず当日の朝に天気がよくなくて健介さんとハイキングやバーベキューが予定通りに行われるかどうか心配していましたが、だんだん天気回復していき、犬山についてからまもなくお日様が私たちを迎えてくれました。到着して後藤さんやバーベキューの支度をされている方々とあいさつをしてから山を登って行きました。はじめは天気がまだ完全に回復しなかったため、危うくない山道を登り、洞窟を見て下る中、ようやくよい天気になり、山頂に連れていって

いただきました。その時、山頂から見た風景は今も忘れられないくらい素敵でした。山を下り、バーベキュー場に行き、私たちのために準備してくれた方々とあいさつしてから、バーベキューをやり始めました。お肉も本当においしいかったですし、マッコリもビールも焼酎もおいしかったです。準備してくれた方々とあまりしゃべりあわなかったことは残念ですが、その日の思い出は忘れられないと思います。

私たちのためにいろいろやってくださって本当にありがとうございました。お世話になりました。また今度こういう機会があったらぜひ招待してください。

八曾自然休養林での一日(日韓市民・交流の森)

金良圭 キム・ヤンギョ

この度、4月29日(昭和の日)に開催された、日韓市民・交流の森に参加させていただきました。私が名古屋に来たのは2005年4月。もう6年目になり、その間何回か誘われたことはありますが、実際に参加したのは、今回が初めてでした。朝まで雨が降って少し心配しましたが、やっと雨が止んだので息子のみならず、家内も大喜び。

不安と適度な緊張を味わいながらキャンプに到着しました。後藤さんや、鈴木君、韓国の留学生たちをモミの木キャンプ場で待ち合わせして、息子をつれて待ちに待った山歩きについていくことにしました。駐車場の向かいに「巖頭洞(がんとうがま)コース」という標識があり、その右にの新しい案内板がありました。そこで、格好いい引率先生より簡単な注意事項を聞き、天気が悪いからキャンプ場～八曾山～巖頭洞～岩見山コースに行くことにしました。

雨で地面がずるずるしたので、息子は何回も転んだりしながら初登山を楽しみました。なだらかな坂道を引率先生と参加者たちとの話し合いながら歩いてくうちに、段々慣れてきて心の中の障壁も消え、まるで故郷へ来たようになりました。特に、岩



見山の頂上で先生が景観や地名の由来、御岳山のことなどを語って下さり、深く印象に残りました。雨に濡れた若葉はひとしおに美しかったです。これだけで心に喜びを得られたので、もとは取れたかな。

しかし、本番はまだ残ってありました。山から下りて早速、BBQパーティーが始まりました。息子が川におぼれて肝を冷やしたハプニングまで、すごくうれしかった。大好きなお酒もいっぱいあるのに車のせいで殆ど飲めなかったのは、とても残念。

「出会い」それは、人間にとって一番す

ばらしいことだと存じます。今回、「日韓市民ネットワークなごや」が催した「日韓市民・交流の森」での一日は、韓国人留学生や、駐在員、多彩な顔ぶれを持つ年配の方が大勢参加され、最高の出会いでした。

とても近いようで遠いような存在であった「韓国と日本」。そして数年前、冬のソナタから始まり火のついた“韓流ブーム”。今では、両国は生活の一部といっても過言ではないほど身近な存在になったのではないのでしょうか？これからは、「日韓市民ネットワークなごや」の活躍を期待します。

後藤さんをはじめ、スタッフの皆さん！

本当にありがとうございました。感謝しても仕切れないほどです。そして、こんな

に充実な企画に参加させて頂き、本当にありがとうございます。こんなに楽しくて仕方がないイベントに参加したのは初めてでした。この集いに参加して、考えさせられることがたくさんありました。スタッフの皆さんの優しさと情熱が伝わってきて、自分も周りに目を向けられるようになり、少しは成長したのではないかと思います。

実は個人的な事や、論文準備、生活などで、行き詰まっていたところでもあったので、この集いは貴重な体験と共に、とてもいい気分転換にもなりました。とびきりの笑顔で接してくれた皆さん、感謝します。

次回もぜひ参加させてください。

楽しかった交流の森

パク・キジン

まず、日韓交流のためすばらしい場を用意して下さった日韓市民ネットワークの皆様には感謝を申し上げます。

爽快な自然の中、天気にも恵まれすごく楽しい交流会でした。なかなか集まらない韓国の留学生達と交わりができたことも非常に楽しかったですが、何よりも、日韓市民ネットワークの皆さんと出会い、貴重な話を聞いて本当に良かったです。“朝鮮・満州で幼少期を過ごしたシニアの方々や在日韓国人など、韓国と縁の深い方々がこんなにもたくさんいるんだ。また、私より韓国のことをよく知り、考えていらっしやるんだ。”と感じ、本当に感動しました。

もちろんバーベキューもとても美味しかったです。特に、カレーはお母さんの味がして何回もお代わりしました。涼しい風の中、暖かい笑顔の人々との美味しい食事は最高でした。

今回の交流会を通して作られた縁をきっかけに、ますます日韓交流に励む日韓ネットワークになることを願います。



八曾の集いについて2点ほどさらに報告しておく必要があると思います。

1点は、今回、事務局の読みが甘く、行事の会計が10万円以上の大赤字になる所でしたが、なんと10万円もの寄付を事前に振り込んで頂いた方がいて急場をしのぐことが出来たという事実です。まず、大赤字になりかかった事情ですが、留学生をなるべく多くと20人も無料で招待したり、彼らに高い交通費も払わせないようにとマイクロバスを運転する人を含めてチャーターしたことがあります。またバーベキューをはじめ飲食にも、かなり資金をかけました。

その一方で会員 1 人から入る会費は 2000 円の当日払いと安く設定しておいたのですが、前日や当日になって不参加を連絡してきた方も多く、赤字が大きくなったのです。しかしそのような事態を招いたのは、やはり事務局一同の見通しが甘かったからと言わざるを得ません。

今後は八曾での行事の際も、韓国学校で行う交流パーティのように会員の方々に事前に会費や多数の留学生を招待出来るよう少しずつ寄付を事前に振り込んでいただくようにしたらと考えているところです。

さて、10 万円もの寄付で大赤字になるところを助けて頂いた方は鄭禧昇（チョン・ヒスン）さんという在日の実業家の方です。会員の方ではありませんが、去年から私たちが主催している日韓交流史講座を受講されており、韓国への歴史紀行にも同行された方です。歴史に大変詳しく、日韓人の交流にも熱心な方なので八曾に招待申し上げたところ、さっそく寄付金を振り込んでいただき、結果として行事が大赤字になる所を救っていただいたというわけです。誌上を借りて改めてお礼を申し上げます。

もう 1 点、八曾のバーベキュー場の設営や名鉄羽黒駅からの関係者の輸送、それに留学生の山歩きなどに会員でない事務局の友人たちが大活躍してくれたことを報告させていただきます。早朝から八曾に入り、一日忙しく働いてもらいましたが、「隣国の留学生たちが素直で礼儀正しいのを見て、印象的だった。手伝ってよかった！」と口々に言っていました。



（４）会からのお知らせ

（１）光州交流団の来日決定 ～ 8月5日から9日まで ～

私たちの団体は過去 12 年間、毎年のように韓国から大学生交流団を招待してきました。昨年は残念ながら極端なウォン安、円高での波紋で交流団は来なかったのですが、今年は光州からの交流団が訪日することが決定しています。光州訪問団といえば 2 年前の出来事を思い出す方々も多いのではないのでしょうか！？

2 年前の夏、あの年も竹島（独島）の帰属問題で韓国の世論が沸騰し、日韓交流の 100 を越える行事が軒並み中止となっていきました。そんな中、光州交流団のまとめ役である、光州 YMC A は「日韓市民ネットワーク・なごやとの交流をここで絶つ理由はない！」と決然として交流団を派遣して頂いたのです。その光州訪問団を再び迎えるにあたって 私たちも万全の準備を整えたいと思います。



交流団を招くたび、私たちは彼らのために奈良一泊旅行をプレゼントしてきました。日本の奈良には韓国ではもはや見ることのできない古代朝鮮の文化財とも言える堂塔や仏像（法隆寺の堂塔や仏像など）が 1300 年の歳月に耐えて守られているからです。それらの建築物や仏像は、百済王朝が大和王朝のために派遣してきた工人たちの手によって造られました。歴代の大学生交流団は、百済の工人の手になる木造の建物や仏像が日本人の手によって、なんと 1300 年もの永きにわたって守られていることに感激し、一様に日本人や日本文化に対する認識を改めてくれました。

同様の機会を今回の交流団にも提供したいと思いますので、恐縮ですが会員の皆さんは同封の振込用紙用いて郵便局から会の口座宛てに少しずつ寄付金を振り込んでいただくようお願いいたします。これまでの経験では奈良一泊旅行には 25 万円前後の経費がかかっています。ご協力宜しくお願いします。

恒例により、8 月 8 日（日）、下記の予定で光州交流団との歓迎交流会を開きますので、できるだけ多くの方々にご出席の上、光州の若者たちと対話していただくよう要請します。



光州の若者と語り合おう！

- 1, 日時・8月8日(日)17:00~19:30
..※ 16:40までにお集まり下さい
- 2, 場所・名古屋韓国学校2階教室
..※ 地下鉄東山線亀島駅2番出口から2分
- 3, 参加費・3,500円
..※ 奈良一泊旅行の寄付金と共に、振込用紙にて事前に振り込んでください。



ハガキを投函して下さい！
光州交流団との歓迎交流パーティへの
出欠や奈良訪問への支援金の予定など、
恐縮ですがハガキで
7月5日までにお知らせ下さい！

(5) 新会員紹介

中林 速雄

松木 み代

有賀 昌久

加藤 静枝



高校生たちの日韓朝交流 ～5月3日・南山大学～

東海高校教員 会員幹事（大学・高校生交流リーダー） 久田光政

ハムケ＝ともに高校生平和特派員実行委員会は今年も5月のゴールデンウィークに、韓国伝統文化高校(全羅북도全州市)の高校生15名と先生4名を迎えました。3泊4日の交流のメイン企画は5月3日に開催した「めっちゃサランへヨ・ノムノム愛してる Talk LIVE in なごや1910→2010→～Make it Possible! つくろう日韓朝の未来を～」と題した討論企画(新入生歓迎フェスティバルの企画として開催)。

参加したのはハムケメンバーの名古屋の高校生、伝統文化高生、そして通訳もかねて愛知朝鮮高級学校(豊明市)の高校生、それぞれ15名ほど。それに大人が15名ほど。

討論テーマはサッカーW杯では3カ国が対戦したらどの国を応援するのかに始まり、それぞれの国の未来に自分たちはどうかかわることができるかなど、多岐にわたりました。

高校学費無償化問題では、なぜ朝鮮高校生だけが対象外とされたのか、そこには在日コリアンへの差別があるのではないかを話し合いました。

朝鮮高校の女子生徒(2年)は「鳩山首相は国交がないので教育内容をチェックできないというのが、ちゃんとした学校法人だし、愛知県に教育内容も財政も報告している」と語り、別の生徒も「国交がない他の国の外国人学校の生徒だって無償化を受けている。不公平でとても寂しい」と語ります。

根本には朝鮮人への差別意識があるのではないかという話し合いになり、差別経験が語られました。朝鮮学校の生徒と分かるアルバイトの採用を取り消されたり、レンタルビデオ店の会員登録を断られたりした体験が語られました。韓国や日本の高校生も「おかしい」「不公平だ」と口々に語り、「朝鮮学校生も無償化の対象にするよう一緒に訴えていこう」と話しました。

哨戒艦「天安」の沈没事件に関連して、徴兵制について討論もしました。韓国の男

子生徒は「徴兵制は当たり前。自分の手で国や家族を守る」と語りました。一方、韓国の女子生徒は「天安の事故が起きて、徴兵に行くのは嫌だという若者が増えた。やっぱり命の危険がともなう仕事を強制するのはよくない」と発言。さらに「そもそも軍隊は必要か」というテーマになり、日本の男子生徒は「軍隊で教えるのは、人を殺すための技術。平和のためには軍隊はないほうがいい」と話し、朝鮮高校の女子生徒は「軍隊は他国を攻撃するためにあるのではなく、自分の国や家族を守るためにあつ



てほしい」と語りました。

安重根が伊藤博文を射殺し、死刑になって100年にもあたる今年。安重根が旅順監獄で書き残した「東洋平和論」が紹介されました。その内容は日本と韓国と中国の東洋の3カ国がもっと仲良くしなければならぬというもの。死後100年たった今、安重根の遺志を今に引き継ぐことが重要ではないかということが最後のテーマとなりました。それに関連して、南北の統一について、朝鮮高校の女子生徒は「韓国の人たちは朝鮮と統一をしたがっているのか、率直に教えてほしい」と発言。「北と南は農産物や鉱物資源など環境がまったく違う。一つになることはお互いの利益になる」、「分断時に離れ離れになった離散家族を再会させたい」などの意見が相次ぎました。

韓国の男子生徒が、南北の統一も、日本との友好も「お互いよく話し合うことがま

ず大切だと思う。文化・思想・政治の違いを乗り越え、歴史と向き合って、すれ違いや誤解を解消するのが第一」だと語ると、「今日の集まりが十分に貢献していると思う。自分たち高校生が理解を深めあうことが大切だ」と声があがりました。

討論に参加した在日韓国人2世の男子生徒は「小学校のころはよくいじめられていたが、高校に入ってからなくなった。分別ある年になった高校生がもっと交流し、日本と韓国、朝鮮で一致団結できたらいい」と語りました。

午後からは新入生歓迎フェスティバルで伝統高調理科学生の韓国料理模擬店、工芸デザイン科と韓国絵画科の学生による伝統うちのワークショップを行いました。そして、日本の高校生も朝鮮高校生も販売と勧誘を行い、三者が一致団結して模擬店とワークショップを成功させました。

また、翌日は戦時における日本の被害と加害を展示する博物館「ピース愛知」(名東区)を見学しました。「我が国の戦争についてだけ勉強し、我が国だけのことしか知らなくて、日本のことがあまり好きではなかったが、ピース愛知にきて、日本も同じくたいへんだったということを知った。日本は分断国家でもなく、憲法を定め平和を守ろうと努力している姿勢を見て、羨ましく、すごいと思った。」「日本でも戦争に反対した人がいたことを初めて知りました。戦争だけを見て、日本人みんなを判断してはいけないことも気づきました。韓国の

人々がこの事実を知れば、少しは今までの「恨」を払い落とせることができるのではないのでしょうか。また、戦争の写真は本当に残酷でした。戦争と関係のない民間人まで殺された。これからは戦争が起きず、戦争のない世界で生きたいと思います」などの感想が語られました。

3泊4日のプログラムを終え、セントレアで涙を流しながら、7月の韓国での再会を誓いあった高校生の交流でした。

7月18日～23日の韓国交流(参加費：高校生=25,000円、一般大人=



50,000円、他に燃油、空港税など6,200円)のお問い合わせは久田(090-6571-1239、vxq12@yahoo.co.jp)まで。中高生がメインですが、大人の方も余裕がある範囲で受け付けます。

“함께=ともに”高校生平和特派員実行委員会2009年度企画
♡ めっちゃサランヘヨ ♡
チヨルヲ愛してる ♡
~“함께=ともに”ライブ2009 in ナゴヤ&ソウル~



7月18日～23日の韓国交流

参加費

高校生 :25,000円

一般大人:50,000円

<他に燃油、空港税など6,200円>

お問合せ

久田(090-6571-1239)

Mail;vxq12@yahoo.co.jp

中高生がメインですが、大人の方も余裕がある範囲で受け付けます。

顧問の尹大辰先生に大統領表彰

前名古屋韓国学校校長の尹大辰先生が5月24日(月)午後3時、駐名古屋韓国総領事館にて大韓民国大統領表彰状の授与式がありました。

今回の受賞理由は、在外同胞教育分野において透徹な教育観と使命感を持って在外国民教育および国際理解教育発展に大きく寄与したことが認められたものです。

在日韓国人二世の尹大辰先生は名古屋韓国学校教師および校長として30年近く勤務し、昨年3月末定年退職しました。在職中は、在日韓国人子弟はもちろん日本人に韓国語と韓国文化、歴史などの教育活動をして来ました。現在は、大学や文化センターなどで韓国語の普及、日韓文化交流推進のための活動を行っています。

授与式には、李泰雨総領事、張永植理事長、鄭博民団本部団長、李孔一新西支部団長、関係者など20名が参席しました。



日韓市民ネットワーク・なごやの創立以来の顧問、尹大辰先生（前名古屋韓国学校校長、現愛知大学講師）が、永年にわたって在日同胞の民俗教育に尽くしたとして、李明博大統領からの表彰状を、李泰雨総領事より授与されました。

周知のように尹大辰先生は、1978年（昭和53年）より昨年まで実に32年間にわたって名古屋韓国学校に奉職し、在日同胞の民俗教育に大きく貢献されました。とりわけ最後の9年間は校長の要職にあつて、韓日歴史文化フォーラムの実行委員を務めるなど、在日・韓国人・日本人の文化交流・人間交流に大変尽力していただきました。



私たちの団体が1998年2月の創立の時から、名古屋韓国学校を舞台に数え切れないほど日韓“学生・市民”の交流会を開いてこられたのも、鄭煥麒名誉理事長ほか歴代の理事の方々の了承の下に、“尹大辰校長”が、その都度全面的に支援して頂いたおかげでした。

それだけに今回の尹大辰先生の受賞は、私たち、日韓市民ネットワークの会員にとって、我が事のように嬉しい慶事です。次に会員が集まる機会には、先生の受賞を全員でお祝いしたいと考えています。



韓国の歴史と文化 ～韓国歴史ドラマから学ぶ～

講師 前名古屋韓国学校校長 尹大辰 (コンテジ)
開講日 第4金曜日 18:30～20:00
受講料 6ヵ月分 11,340円
持ち物 筆記用具



2003年、NHKで韓国ドラマ「冬のソナタ」が放映されて以来、多くの韓国ドラマが人気を博し、特に女性の心をつかむ「韓流ブーム」と言う言葉が定着するほどの社会現象となり現在に至っております。最近では「チャングムの誓い」「太王四神記」などの歴史ドラマが注目されるようになり、ドラマから韓国の歴史や文化に関心を持つようになった方が増えてきています。
韓国の歴史ドラマを題材とし、その時代の背景と文化を学びます。
4月から始まる6ヵ月講座です。



- 4月23日 日本と朝鮮半島との交流
— 日本の中の漢文化を訪ねて—
- 5月28日 高句麗の歴史と文化
(「朱蒙」、「太王四神記(広開土大王)」)
- 6月25日 百済・新羅の歴史と文化 (「海神」、「ソドンヨ」)
- 7月23日 高麗の歴史と文化— 韓国の世界遺産—
- 8月27日 朝鮮王朝の歴史と文化
(「チャングムの誓い」、「許浚」)
- 9月24日 朝鮮通信使 — 江戸時代の日韓文化交流—

※内容・日程は変更になる場合がございます。ご了承下さい。
※各講座で卒業検定日が異なりますので、お問い合わせ下さい。
※お申し込みの人数によっては、開講中止となる場合がございます。予めご了承下さい。

※詳細は下記フリーダイヤルまでお問い合わせ下さい。

名古屋・中日文化センター
〒160-0008 名古屋市中区栄1-1 中日ビル
フリーダイヤル 0120-33-8161

中日文化センターへ初めてご入会される方は、別途入会金3,675円が必要です。

尹大辰先生の講義内容



서울통신 ソウル通信

トヨタ 韓国でも好調

韓国ソウル在住 会員 坂野慎治
(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

今年3月期決算で、2期ぶりの黒字に転じたトヨタ自動車。韓国でも、リコール問題によるイメージダウンから脱して、販売が好調です。トヨタは去年10月の韓国進出直後から好調な売れ行きを見せていましたが、リコール問題で今年初めに販売が急減しました。しかし早くも販売が回復して、4月の輸入車販売台数(車種別)でカムリが467台と1位になりました。

人気の理由は、ブランド力と価格です。カムリ(2.5L)の価格はフルオプションで、およそ3500万ウォン。現在18カ月の無利子・分割払いができるので、実質的には3000万ウォン程度に感じられます。これに対して韓国現代自動車のソナタは、最高級モデルがおよそ2800万ウォン。さらに、カムリには付いているカーナビゲーションとサンルーフを加えるとプラス300万ウォン。ソナタの排気量は2Lなので、値段の違いはほとんどありません。こうした価格戦略は、他の日本メーカーも同様で、韓国の国産車と比べても割高感がなくなっています。このように輸入車が身近になったこともあり、4月の輸入車販売台数は7208台(前月比1.5%増)になりました。先月初めて7000台を超えて、さらに伸びています。



カムリだけでなく輸入車の人気はこれからも続きそうですが、大型車が人気の韓国だけに、よく売れているのは排気量の大きな車です。そのためトヨタ以外の日本メーカーは、同じ車種でも2種類の排気量を用意しています。例えばホンダのアコードは、2008年に3.5Lモデル(約4000万ウォン)が4948台売れて、輸入車の年間販売台数で1位になりました。しかし、2.4Lモデル(約3500万ウォン)は1836台と半分以下でした。日産のアルティマも同様で、3.5Lモデルが2.4Lモデルよりも売られています。

トヨタのラインナップは現在、カムリ(2.5L、ハイブリッド:2.4L)、RAV4(2.5L)、ハイブリッドカーのプリウス(1.8L)の4種類のみ。今後、排気量の大きな車が売り出されれば、さらに人気が出るかもしれません。



편집 후기

編集後記

(2010/05/30)

会員の皆様、いかがお過ごしですか? 当会も13年目を迎えることになりました。こんなに長い間、続けて来れた原動力は何なんだろう...と考えてみますと...

私の場合21歳から起業して62歳になる今日まで幾度となく業種転換を繰り返しながら事業経営をやってきました。今の新事業を始めたのが55歳の時、情報産業から撤退し新規立ち上げでボランティアをしている余裕もなかったのですが、当会のホームページを立ち上げたり総括副幹事として微力ながらお手伝いをさせていただきました。いわばこの会のおかげで人のために役立つことが喜びとなり事業にも社会貢献的な取り組みができるようになりました。それと言うまでもなく多くの会員の方々とお会いすることができたこともその理由の一つです。

今回は恥ずかしくも自分のことを述べてしまいました。

編集長&ホームページ管理者 中川 修介